

「職務論文」執筆の要諦

- ◆ 校長職候補者選考で課される「職務論文」の執筆について、思いつくままに記します。
- ◆ まずは「課題」と「問題」を混同しないことです。指定された第1の柱「課題の設定」の「課題」とは、達成すべき事項です。一方、第2の柱「問題点の指摘」の「問題」とは、課題達成を阻（はば）む事項、すなわち解決すべき事項です。



「1 課題の設定」について

- ◆ 課題に即した所属集団の実態を述べる。
- ◆ 設定した課題の教育的価値を論じる。
- ◆ 一般論や学習指導要領、各種答申の内容は、削除する。

「2 問題点の指摘」について

この柱の内容が、論文の質を大きく左右します。

- ◆ 問題点だけを記述する。
- ◆ 対応する上で必要となる事項や対応の方向性などは、一切省く。

「3 対応策の提示」について

- ◆ 指示系統を書き込み、組織を生かし人を育てる対応策を論じる。
- ◆ 一つの事項だけでなく、関連事項を畳みかけるように記述し、説得力をもたせる。(例)「副校長に～、教務主任に～、研究主任に～」
- ◆ 対応策を実行したらどうなるかを記すことで価値付けを行い、深みをもたせる。

一文は、短く、
接続語は、極力用いず、
段落を適切に設けることで、
読みやすく、分かりやすい
文章にしましょう。

クリティカル・シンキングを働かせ、自ら論文の質を高めよう

執筆及び推敲の段階で、次の三つの内言を発する

「ほかに考え方はないか」、「分かりやすいか」、「本当にこれでよいか」

目的に向かう努力

作家・詩人・エッセイスト ロバート・L・スティープンソン

希望を抱いて旅をすることの方が、到着することよりもよいことだ。

真の成功とは、目的に向かって努力することである。

出典：「賢人たちに学ぶ 自分を磨く言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 学習でもスポーツでも、同じことが言えると思います。子供たちに伝えたい言葉です。